

逡信病院の現状と課題

日本郵政株式会社

2017年4月26日

1 通信病院設置状況

○ 沿革

S13年～

・ 職域病院として通信省時代に設立

S24年

・ 通信省の二省分離（郵政省は8病院を承継）

S55年～

・ 会計検査院等の指摘により一般開放実施

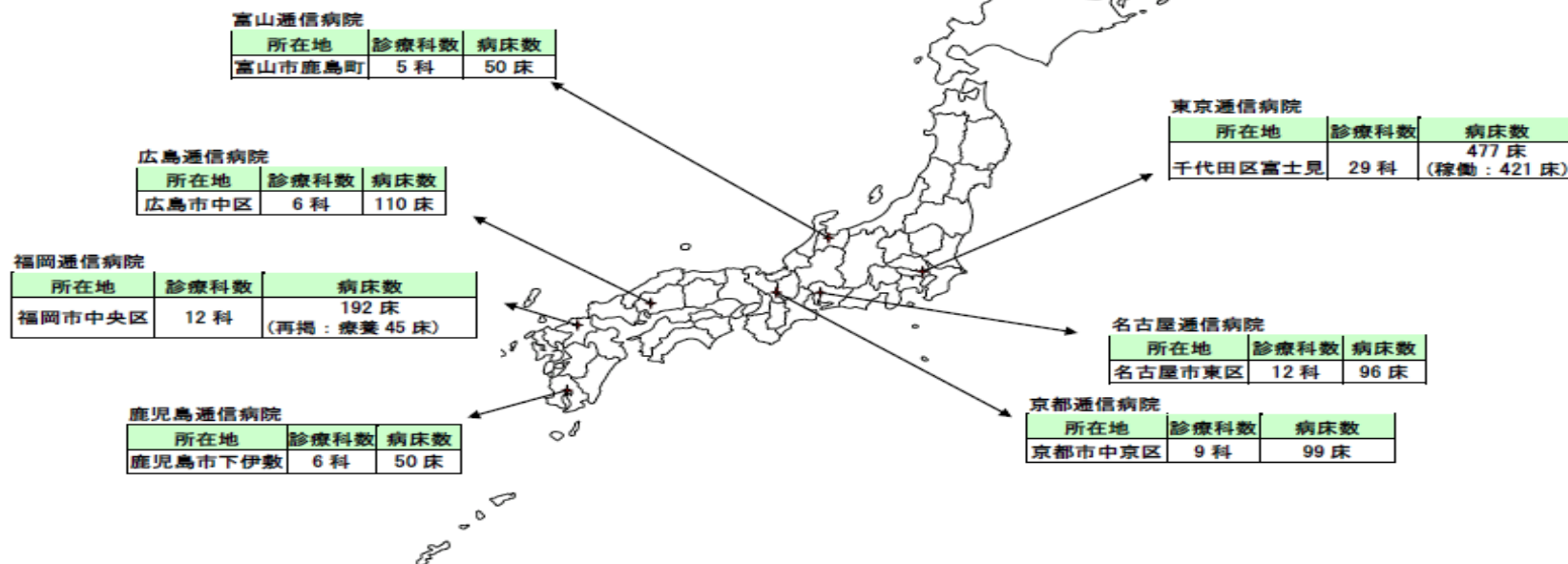
《経営理念》

現在の持てる経営資源を最大限に活用し、地域医療ニーズに応えた良質な医療を提供する。

○ 組織・体制

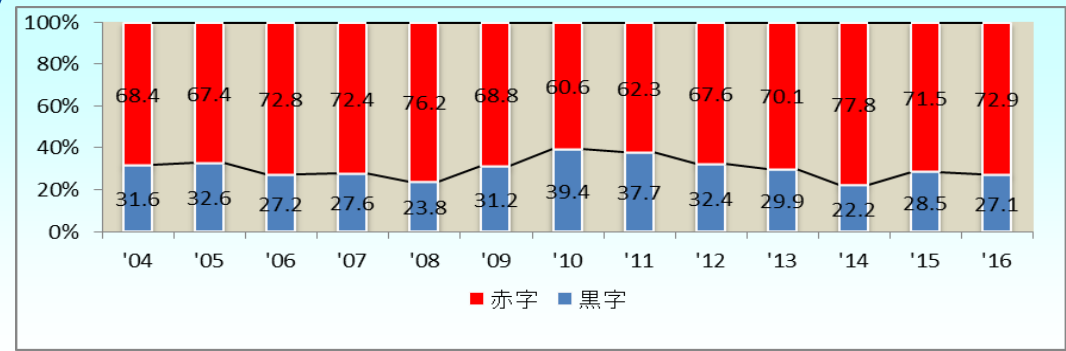
通信病院の概要(2017年4月1日現在)

- 【規模】 通信病院全体・・・1,074床(※病床数は許可病床数)、正社員数 1,287人
- ◇ 東京が最大で477床、福岡が192床、他は100床規模3病院、50床規模2病院)
 - ◇ 2015年4月1日付けで仙台・新潟・神戸通信病院の事業譲渡を実施。
 - ◇ 2016年3月31日付けで大阪北通信病院を閉院。
 - ◇ 2017年4月1日付けで札幌・横浜・徳島通信病院の事業譲渡を実施。



2 病院を取り巻く環境

民間等病院経営 …… 厳しい状況が続く



出典: 全国公私病院連盟、日本病院会「病院運営実態分析調査」(2016年6月期調査)

■ 全国公私病院連盟、社団法人日本病院会の調査によれば約73%の病院が赤字経営(注)
(注) 全国公私病院連盟、社団法人日本病院会に加盟・加入している病院に調査依頼し、黒字、赤字状況項目について回答のあった638病院について集計

診療報酬・薬価基準改定率の推移

単位: %

	診療報酬	薬価基準	合計
2002年度	▲1.30	▲1.40	▲2.70
2004年度	0.00	▲1.00	▲1.00
2006年度	▲1.36	▲1.80	▲3.16
2008年度	0.38	▲1.20	▲0.82
2010年度	1.55	▲1.36	0.19
2012年度	1.379	▲1.375	0.004
2014年度	0.73	▲0.63	0.1
2016年度	0.49	▲1.33	▲0.84

3 通信病院の現状と課題

(1) 現 状

通信病院の現状

臨床研修医制度改正(2004年4月～)に伴う大学医局所属医師不足による医局への医師引き上げにより、医師確保に苦慮しており、そのため医師不足等による患者減少傾向に歯止めがかかっていない状況。この影響により医業損益は2013年度▲57億円、2014年度▲60億円(14通信病院)、2015年度▲52億円(11通信病院)の赤字となっており、厳しい経営状況にあると認識。

	損 益	入院患者数	外来患者数
2008年度	▲50億円	37万人	106万人
2009年度	▲57億円	34万人	104万人
2010年度	▲53億円	34万人	101万人
2011年度	▲49億円	33万人	95万人
2012年度	▲48億円	32万人	89万人
2013年度	▲57億円	31万人	87万人
2014年度	▲60億円	30万人	83万人
2015年度	▲52億円	28万人	73万人

(2) 課 題

通信病院経営上の課題・問題点

医療制度改革の影響

・診療報酬改定は、2002年度以降マイナス改定が続いていたが、8年ぶりに2010年度にプラス改定となった以降2012年度、2014年度と連続してプラス改定となったが、2016年度は8年ぶりにマイナス改定(2014年度は全体改定率ではプラスとなったが、消費税引上げ分を考慮すると、実質的にはマイナス改定)

通信病院が抱える問題点

- ・中小規模病院が多く、専門性・特色を持っていない
- ・施設・設備の老朽化による患者アピールの低下

外部環境の変化

- ・患者の専門病院、大病院志向
- ・病院と介護施設等グループ経営による患者囲い込み進展と競争激化

4 2017年度 通信病院経営改善計画

概要

2017年度の病院事業の経営計画の推進に当たっては、通信病院の健全経営に向けての取組み、また、2018(平成30)年度、介護報酬・診療報酬の同時改定、第7次医療計画・第3期医療費適正化計画を踏まえた経営改善の取組みを推進することとし、前年度に引続き、以下5施策を柱として取り組む。

柱となる5施策のほか、地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化及び2018年度診療報酬改定内容への的確な対応の支援など、通信病院と本社病院管理部とが更にコミュニケーションをとることとする。

① 医業収益向上のための施策の推進

- ・ 患者増対策
医療施設・介護施設との連携強化、退院支援の充実、がん患者受入れ強化等
- ・ 単価アップ策
診療報酬対応、データ等の活用、必要な検査等充実 等
- ・ 人間ドック受検者増対策
診療科医師による推奨、新規団体(部外)との契約、オプション検査の充実、検査機器等の有効活用 等
- ・ リハビリテーションの充実
質の高いリハビリテーションによる患者の早期機能回復の推進
- ・ 地域連携活動の推進
地域医療機関に対するアピール強化

② 利用者拡大に向けた積極的なPR活動の強化

- ・ 地域を対象とした健康教室等の開催、地域催し等への参加等サービス強化
- ・ 利用拡大に向けたPR策強化(地域コミュニケーション誌、社内誌「郵政」、ゆうせい共済等に通信病院記事掲載等)

③ コスト管理の徹底(効率化・費用節減策の推進)

- ・ 医薬品一括購入、医療機器等の取りまとめ調達することによるコスト節減
- ・ 予算管理方法の見直し

④ 医療安全の推進を通じた医療の質の向上

- ・ 学会への参加支援
- ・ 研修の充実等(認定看護師資格取得支援、看護師役職者機能向上研修の実施)
- ・ 医療安全・医療の質向上研修の実施
- ・ チーム医療の推進

⑤ コンプライアンスの徹底

- ・ 各種研修の充実
- ・ 診療録の適正管理、防火対策の強化等重点項目の推進
- ・ 自己点検、モニタリングによる必要な改善の実施

5 2016年度 通信病院経営改善の取り組み状況

○ 医業収益向上のための施策

・ 地域連携活動

各通信病院の診療受入れ体制を踏まえターゲットを絞った地域連携活動による紹介患者の確保
大病院からの超急性期経過患者受入れ（全通信病院）、地域連携システムへの参入（名古屋）、
介護施設等の協力病院（全通信病院） など

・ 専門性を活かした診療

鹿児島大学病院との連携による肝臓内科専門診療の推進（鹿児島）

・ 単価アップ策

必要な検査等充実、医療機器稼働率向上及び請求漏れの検証による単価アップ（全通信病院）

○ 利用者拡大に向けた積極的な PR 活動の強化

・ 患者増加対策のためのPR

地域連携医療機関への「診療のご案内」等の配布（全通信病院）
病院認知度を高めるため「病気&診療完全解説 book」の発行（東京）

○ コスト管理の徹底

- ・ 医薬品一括購入により医薬品購入経費の削減
- ・ 医療機器等の本社一括購入の実施